

## 先発薬の負担増提起

厚労省「安価な後発薬使え」

厚生労働省は9日、特許が切れたりして、より安価な後発医薬品がある先発薬（長期収載品）について、後発薬との差額のすべてを一部を患者負担に上乗せする案を、社会保障審議会の部会に示しました。患者負担は原則3割とされていて、それを実質的に破り、さらなる負担増を押し付けるもので、年末までに具体的な上乗せ額などをまとめ構えです。

厚労省は薬剤費の抑

合は変わらません。そのため厚労省は、長期収載品を使う人の患者負担（3割なら60円）に、二つの薬の差額100円のすべてを一部を上乗せするイメージ

図を示しました。

審議会からは、患者に必要な先発薬が処方しないことへの懸念や、後発薬の需要増によって現在の供給不足がさらに悪化する危惧が表明されました。

制ありきで、「従来と異なるアプローチ」でより安価な後発薬への切り替えを進める」と主張。これまで何度も議論し断念に追い込まれてきた薬代の値上げについて、「長期収載品の保険給付の見直しを中心として検討」すると示しました。負担増をテコに後発薬に切り替えるとする狙いです。

例えば、薬の公定価格（薬価）が200円の長期収載品と100円の後発薬がある場合、現行ではどちらを